

目 次

Digital Life の歩き方	2
巻頭言	3
サービス	
ソフトウェアライセンスのご案内	4
新メールホスティングサービスのご案内	7
UTACL 運用開始のお知らせ	12
お知らせ	
教育用計算機システムに関わる一部サービスの終了	15
WEB PARK 利用者アンケート	16
報告	
SC19 参加報告	17
UTNET ミーティング開催報告	23
その他	
教育用計算機システム（ECCS）相談員の声	25
新任教職員紹介	28
問い合わせ先	30



Digital Life の歩き方

Digital Life は東京大学情報基盤センターが提供する様々なサービスに関する情報を提供しています。重要なお知らせもありますので、ぜひ一度お目通しいただければ幸いです。

「巻頭言」では、情報メディア教育研究部門長の柴山先生が、教育におけるデータ活用について、農業やスポーツ等との類似性に着目しつつ、経験と勘だけに頼るのではなく、データを活用した教育について検討してみる価値について述べています。

「サービス」のセクションでは、情報基盤センターのサービスに関する情報を掲載しています。「ソフトウェアライセンスのご案内」では、学内向けに提供しているソフトウェアのライセンスや変更点を説明しています。「新メールホスティングサービスのご案内」では、学内組織向けにメールサーバを提供する MailHosting サービスが、2020 年 3 月から GSuite for Education をベースにしたものに移行した件についてご案内しています。非常に大きな変更ですので、メールホスティングに関わっていらっしゃる方は是非一度ご確認ください。「UTACL 運用開始のお知らせ」では、第二段階全学ファイアウォールのサービスの一部であるアクセス制御リスト (Access Control List: ACL) の機能を紹介しています。セキュリティ強化のための基本機能ですので、ぜひご活用をご検討ください。

「お知らせ」のセクションでは、情報基盤センターのサービスに関する重要なお知らせを掲載しています。「教育用計算機システムに関わる一部サービスの終了」では、xxx@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp という形式の ECCS 教職員メールサービスや、https://user.ecc.u-tokyo.ac.jp で提供されていたユーザ情報発信用 WWW サーバ、有線 LAN サービスの終了をお知らせしています。利用者の方々にはご不便をおかけしますが、情報サービスは時代の流れに伴う陳腐化が激しく、セキュリティやコストの問題がますます重要になってきていますので、古いサービスの終了にご理解いただけますようお願いいたします。「WEB PARK 利用者アンケート」では、現在さくらインターネットが提供している学内向け Web ホスティングサービスの更新にともない、次期サービスに向けたアンケートへのご協力に関するお知らせです。ご興味がおありの方はぜひご協力をお願いいたします。

「報告」のセクションでは、情報基盤センターの教職員が関係したイベント等に関する報告を掲載しています。「SC 19 参加報告」では、スーパーコンピューティング部門が参加したスパコンに関する著名な国際会議の参加報告をしています。「UTNET ミーティング開催報告」では、昨年 10 月 28 日におこなわれた学内のネットワーク管理者向けのミーティングの開催報告をしています。UTNET ミーティングは毎年開催していますので、ネットワーク管理に関わっていらっしゃる方は、ぜひ次回のご参加もご検討ください。

「その他」のセクションでは、上記以外の内容を掲載しています。「相談員の声」では、教育用計算機システムの相談員の生の声を毎号掲載しています。「新任教職員紹介」では、新たに着任された教職員の自己紹介を掲載しています。「問い合わせ先」では、当センターのサービスに関する URL やメールアドレス、内線番号などが記載されています。

本号に関するご意見等は、巻末に記載のメールや Web フォームでお送りください。

(編集長 品川 高廣)

巻頭言

今回の巻頭言は、情報技術と教育についてです。教育職にも関わらず、多くの大学教員は教授法を体系的に学んだことがありません。大学院設置基準でファカルティディベロップメント（FD）が義務化されてから10年以上が経ち、昔よりは良くなったかもしれませんが、経験と勘に基づく教育が日々行われていることでしょう。

では、人間の経験と勘はどれくらい頼りになるのか？近頃では、データや客観的根拠に基づく方法が各方面で重視されるようになり、経験と勘より優位となる事例の紹介も増えています。ボルドーワインの品質予測値を単純な一次式で表すアッシェンフェルターの方程式、書籍や映画の「マネーボール」で有名になった野球のセイバーメトリクスなど、当初は専門家から大反発を受けた事例も少なくありません。

アッシェンフェルターの方程式は、実質的に、降雨量や気温からボルドー地区のブドウの品質を予測します。近年では、このレベルに留まらず、農業への情報技術の適用事例が増えており、スマートアグリ（SMART AGRI）、アグリテック（AgriTech）などのキーワードをよく見かけます。一方、セイバーメトリクスが関係するスポーツ分野の情報技術革命も急速に進んでいます。今年の東京オリンピックでは、アスリートのレベルアップのため、大いに活用されることでしょう。

農業とスポーツに寄り道したのは、育成や成長に関係する点が、何となく教育と似ているからです。さらに、健康に関係する医療分野にも、経験と勘のバイアスを減らす「根拠に基づく医療（EBM – Evidence-Based Medicine）」があります。農業、スポーツ、医療でデータや根拠に基づく方法が使えるなら、教育でも使えるだろうと思うわけです（公平のために告白すると、この思いは、執筆者自身の経験と勘によっています）。

実際のところ、データに基づく教育の成功事例として、海外大学では中途退学率減少の報告が多いように感じます。授業料収入に直結する経営的に重要な指標のため、投資のインセンティブが働きやすい領域であることも関係しているようです。

もう少しミクロな話をすると、教育におけるデータ活用で、まずは学習状況の可視化が重要です。他大学の知り合いの先生の話では、「締切りまでにオンラインテストを何回再受験しても良い」という条件で、自己の得点と全体の特徴分布をリアルタイムで見えるようにすると、学生の競争心を刺激し、最終的にとても高い得点分布となったそうです。これは、己を知ることとモチベーションを高めることに情報技術が使える事例です。もう一つ重要なのが個別化です。テストの結果や行動履歴の記録などから、自力で学習できるか助けを必要とするかを識別すること、学力に応じた教材を提示することなどが次第に可能となっていくでしょう。

とは言うものの、データの分析は統計的手法に頼るため、可能性が多くサンプル数が少ないとうまく機能しないかもしれません。個性的天才の育成なんてテーマには向かないでしょう。研究分野でのデータ活用を実践しておられる方は多いと思いますが、教育にデータをどう使えば良いか、皆さんも少し考えてみませんか？

（情報メディア教育研究部門長 柴山悦哉）

ソフトウェアライセンスのご案内

情報基盤センターでは、現在以下の一覧にあるソフトウェアの学内ライセンスを提供しています。これらのソフトウェアの利用を希望される場合は、各利用内規等をご確認の上、申請手続きを行ってください。契約は年度単位で中止申請が無い場合は、翌年度自動継続となります。利用を中止する場合は利用廃止届の手続きを行ってください。

ウイルス対策ソフト

Windows、MacOS 及び Linux 環境の PC やサーバで利用できる、ウイルス対策ソフトのライセンスを提供しています。利用するためには利用負担金が発生しますので、申請者（学生は不可）は、経理責任者（会計チーム等事務系の経理責任者）の了承を得てから申請を行ってください。

1) クライアント用

製品名	Win	Mac	利用負担金
ウイルスバスター（日本語版）	○		1,000 円 / 年 (1 台)
ウイルスバスター（英語版）	○		
Sophos Antivirus	○	○	
ESET Endpoint Security	○	○	
Symantec Endpoint Protection	○	○	

2) サーバ用（Windows Server, Linux）

製品名	利用負担金
Server Protection for Windows（Windows サーバ専用）	5,000 円 / 年（1 台）
Server Protect for Linux（Linux 環境）	10,000 円 / 年（1 台）

3) Mail 対策用

製品名	利用負担金
InterScan Messaging Security Virtual Appliance（仮想化 OS 用）	100,000 円 / 年（1 台）
InterScan Messaging Security Suite Plus（物理サーバ用 Linux）	

（参考）情報基盤センター以外にも学内向けにウイルス対策ソフトを提供している組織があります。問合せ先等詳細は下記サイトを御覧ください。

情報システム本部：System Center Endpoint Protection（Windows8.1）

http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/UTokyo_Microsoft_License_for_University_PC

工学部：ウイルスバスター コーポレートエディション

<http://info.t.u-tokyo.ac.jp/network-ng/user/software/antivirus/>

新領域：ESET

<https://sites.google.com/edu.k.u-tokyo.ac.jp/network/> ソフトウェアライセンス / eset

スタンドアロン／クローズド環境向けウイルス検索・駆除ツールの提供開始

スタンドアロン／クローズド環境向けに、トレンドマイクロの Portable Security の貸出を開始しました。USB メモリ型のウイルス検索・駆除ツールで、ソフトウェアのインストールが不要です。ウイルス感染のためネットワーク遮断した PC の調査や、ソフトウェアのインストールができない PC にご活用ください。

- ・ 暫定サービスとなり当面無料で提供いたします。
- ・ 数に限りがございますのでお待ちいただく場合があります。
- ・ お手元に届いてから 7 日以内の返却にご協力をお願いします。
- ・ 対応 OS は Windows です。
- ・ 申請は教職員からのみ受け付けます。（学生からの申請は不可）

PortableSecurity 利用申請フォーム

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/internal-only/application/portablesecurity>

研究用ソフトウェアライセンス

統計解析ソフト、CAD ソフト等一部の研究用ソフトウェアのライセンスを提供しています。利用するためには利用負担金が発生しますので、申請者（一部のソフトウェアを除き学生は不可）は、経理責任者（会計チーム等事務系の経理責任者）の了承を得てから申請を行ってください。

製品名	利用負担金
JMP Pro（統計解析ソフトウェア）	10,000 円 / 年（1 申請）
Mathematica（数式処理システム）	50,000 円 / 年（1 申請）
Chem Bio Office（統合化学ソフトウェアパッケージ）	40,000 円 / 年（5 台）
LabVIEW（システム開発ソフトウェア）	50,000 円 / 年（1 申請）
Creo（三次元 CAD ソフト）	20,000 円 / 年（1 申請）

（参考）その他のソフトウェアに関する問合せ先等詳細は下記サイトを御覧ください。

情報システム本部：UTokyo Microsoft License for University PC（MS Office, Windows10 等）

http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/UTokyo_Microsoft_License_for_University_PC

情報戦略チーム：Microsoft ASP（アカデミックセレクトプラス）ライセンス

http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/Microsoft_ASP ライセンス

情報戦略チーム：MATLAB

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/dics/ja/matlabcw1.html>

東大生協：東京大学 Adobe CLP ライセンス

<http://www.utcoop.or.jp/share/sale/software.html#adobe>

利用申請書の提出およびお問い合わせ

本サービスのご案内 Web サイト <http://www.software.itc.u-tokyo.ac.jp/>

お問い合わせ用メールアドレス software-license@itc.u-tokyo.ac.jp

利用申請書の提出先 情報基盤センター ネットワークチーム

(ネットワークチーム)

新メールホスティングサービスのご案内

1 新サービスの概要

情報基盤センターの MailHosting、東京大学情報基盤センター 学内組織向けメールサーバは、クラウドサービスを用いた新たなサービスの運用を、2020 年 3 月に開始しました。

新サービスは ECCS クラウドメール (GSuite for Education) を用いており、MailSuite を用いた以前のサービス（以下「旧サービス」という）と比較して、以下の特徴があるのでご注意ください。

- ・ メールサービスとしての機能は、ECCS クラウドメール (Gmail) と同じ
- ・ サービスの利用には、原則として ECCS クラウドメールのアカウントが必要
- ・ 組織ごとのメールアドレスは、ECCS クラウドメールのアカウントに対する「エイリアス」として設定
- ・ 組織ごとのドメイン管理のために、ドメイン管理インタフェースを提供

ECCS クラウドメールをご利用できない方には、「転送」サービスを提供します。転送サービスは組織ごとのドメインの特定のメールアドレスへのメール全てを、ドメイン管理者が設定する外部のメールアドレスに転送できます。但し、組織ごとのドメインのメールアドレスからメールを送信することはできません。

2 ドメイン管理インタフェースについて

エイリアス、転送サービス及びグループの管理（登録、変更、削除など）の機能は、新サービスの Web インタフェースとして提供します。

新サービスの Web インタフェースへのログインには、ECCS クラウドメールのアカウントを使用します。また、2 段階認証の設定が必須となります。ドメイン管理者の方は ECCS クラウドメールのアカウントを取得して、2 段階認証プロセスでログインできるように準備してください。

3 利用負担金について

ECCS クラウドメールのアドレスに対して割り当てた、エイリアスの数に応じた負担金となります。転送サービスやグループ機能の利用については、負担金は必要ありません。また、ECCS クラウドメールの利用自体には負担金は掛かりません。詳しくは MailHosting の Web サイトをご覧ください。

4 旧サービスからの移行方法

旧サービスからの移行時には作業が必要となります。以下に作業の概要をご紹介します。詳細については、MailHosting の Web サイトで公開する移行マニュアルをご覧ください。

4.1 ドメイン管理者

以下の作業が必要となります。

- メールアカウントの登録
- 組織ごとのドメインの DNS の登録
- 組織ごとのドメインの SPF の設定
- 組織ごとのドメインの MX レコードの設定

4.1.1 メールアカウントの登録

組織ごとのドメインに存在するメールアドレスひとつひとつにつきまして、どのように移行するかを選択してください。移行種別としては以下の3つがあります。

- A) ECCS クラウドメールで、一般ユーザが利用中のメールアカウントに対して、ドメイン管理者が設定するエイリアス（以下「エイリアス」という）
- B) 一般ユーザが利用中の外部メールアドレス宛に、ドメイン管理者が設定する転送サービス（以下「転送」という）
- C) ドメイン管理者が作成して一般ユーザが管理可能な Google グループ機能（以下「グループ」という）

旧サービスのメールアカウントのうち、**admin** グループと **user** グループは新サービスのエイリアスもしくは転送のいずれかになります。旧サービスの **mlgrp** グループと **Alias** については新サービスのグループになるとお考えください。新旧サービスのアカウントの対応については、表 1 をご覧ください。

A) エイリアス

新サービスでは、組織ごとのドメインのメールアドレスを、ECCS クラウドメールのエイリアスとして割り当てます。ECCS クラウドメールのアカウントから組織ごとのドメインのメールアドレスでメールを送受信することができます。

一般ユーザへのエイリアスの設定は、UTokyo Account のユーザ名（共通 ID）で、利用ドメイン内でのメールアドレスのローカルパート（@ より前の部分）との対応付けを行うことができます。ドメイン管理インタフェースの **Web** インタフェース上で個別に設定する他、CSV ファイルのアップロードによる一括設定も可能です。

エイリアスの数に応じた利用負担金が発生いたします。

表 1 新旧サービスのアカウントの対応表

旧サービスアカウント種別	新サービス
admin グループ アカウント	エイリアス
user グループ アカウント	エイリアス
	転送
Alias	グループ
Mlgrp グループ (メーリングリスト)	

なお、UTokyo Account をお持ちの方は、どなたでも無料で ECCS クラウドメールを利用することができます。組織ごとのドメインのメールアドレスでメールを送信する必要がある方には ECCS クラウドメールの利用の設定をお願いしてください。

B) 転送

UTokyo Account をお持ちでない方につきましては、組織ごとのドメインのメールアドレスから任意のアドレスへのメールの転送することが可能です。但し、メールの転送であるため、組織ごとのドメインのメールアドレスからメールを送信することはできません。ECCS クラウドメールは利用できるが転送だけ利用したい場合も、こちらを選択してください。

利用負担金は発生いたしません。

C) グループ

メーリングリストとして、組織ごとのドメインのメールアドレスとして利用できます。旧サービスのメーリングリスト、及び Alias 機能はこちらを選択してください。

利用負担金は発生いたしません。

旧サービスのアカウントは、MailSuite のドメイン管理インターフェースの [ユーザ情報出力] より CSV ファイルで出力できますのでご活用ください。この時、UTF-8 形式で出力をお願いします。

また、[エイリアス]の確認をお願いします。こちらも[エクスポート]により CSV ファイルに出力することができます。

4.1.2 組織ごとのドメインの DNS の登録

組織ごとのドメインを新サービスで管理するために、組織ごとのドメインの DNS の TXT レコードに TXT 確認レコードの登録をお願いします。TXT 確認レコードは、メールホスティング担当からドメイン管理者に別途発行いたします。

TXT 確認レコードは、以下のような文字列です。(サンプルです。ドメインごとに別

の文字列が発行されます)

google-site-verification=dEfdRkVbP8mRoXPZ-v... (中略) ...X-8TCjc

メールホスティング担当が発行した TXT 確認レコードの登録を、ドメイン管理者から DNS 管理者に依頼してください。

4.1.3 組織ごとのドメインの SPF の設定

組織ごとのドメインの SPF レコードの設定をお願いします。MailHosting では次の広報 (https://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2016/09/23_2325.html) のように SPF の設定をお願いしておりましたが、こちらに追加して次の文字列の登録をお願いします。

include:_spf.google.com

これによりメールを送信した場合に、受信者に受け取っていただける可能性を高くすることができます。

SPF の設定は、DNS 管理者が行います。ドメイン管理者から DNS 管理者に登録を依頼してください。

4.1.4 組織ごとのドメインの MX レコードの設定

これまでの準備が完了した後、組織ごとのドメインの MX レコードの変更をお願いします。MX レコードを変更することで、それ以後組織ごとのドメイン宛のメールは旧サービスではなく新サービスで受信されるようになります。

4.2 一般ユーザ

現在ご利用中のメールアドレスを、前述の「エイリアス」、もしくは「転送」としてご利用になります。どちらで利用されるかは、ドメイン管理者にご確認をお願いします。

エイリアスの場合は、組織ごとのドメインのメールアドレスでのメールの送信及び受信ができます。事前に共通 ID をドメイン管理者にご連絡ください。

転送の場合は、組織ごとのドメインのメールアドレスで受信されたメールを希望する外部のメールアドレスに転送します。事前に外部のメールアドレスをドメイン管理者にご連絡ください。

いずれの場合も、新サービスを利用可能になる日時は利用組織ごとに異なります。ドメイン管理者にご確認ください。

旧サービスで、MailSuite の Web Mail (<https://ms.ecc.u-tokyo.ac.jp/>) をお使いの場合や、メールで受信メールサーバを IMAP として設定している場合、受信したメールは旧サービスのメールサーバ上に保存されています。旧サービスが停止する 2020 年 9 月以降は過

去のメールを読めなくなるのでご注意ください。今回の新サービスへの移行では、**情報基盤センターはデータの移行を行いません**。必ず各自でメールデータのバックアップを行い、必要に応じて新サービスもしくは外部のメールサーバ等に移してください。バックアップの方法については、広報「MailSuite のメールバックアップについて」(https://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2016/07/05_2248.html) をご参照ください。

5 今後の予定

旧システムは 2020 年 8 月中に停止しますので、それまでに余裕をもって移行する必要があります。そこで、遅くとも 4 月中にメールホスティング担当から各利用組織に対して、移行予定日を通知します。

今回の MailHosting サービスの移行においては、各利用組織のドメイン管理者並びに一般ユーザの負担が大きくご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いします。

本サービスのご案内 Web サイト

<https://mh.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

お問い合わせ用メールアドレス

mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp

(教育駒場チーム・教育本郷チーム)

UTACL 運用開始のお知らせ

第二段階全学ファイアウォールのサービス提供が開始され、一年が経過しようとしています。Digital Life Vol.32 にて第二段階全学ファイアウォールのサービス概要を紹介しましたが、その際に UTACL という機能を紹介しました。

この UTACL は、IPAC（東京大学 IP アドレス / 全学 FW 管理システム）と呼ばれるポータルサイトにある一つの機能です。UTACL を利用することにより、各部局の全学 FW 運用担当者は自部局が有するネットワークに対して、自由に IP ACL（アクセスリスト）を設定し、さらにウィルス検知や攻撃検知、URL フィルタリングを行うことができます。

この度、全学 FW WG による UTACL 機能の整備が整い、第二段階 FW 利用者に UTACL 機能を利用してもらうことが可能になったため、この場にて紹介させていただきます。

IPAC には <https://ipac.adm.u-tokyo.ac.jp/> からアクセスできます。IPAC にログインすると、図 1 に示すように、管理権限を有するネットワークに対して IP アドレス情報管理機能 (UTIP) とアクセスリスト管理機能 (UTACL) のリストが表示されます。また、上部メニューから「UTACL」を選択しても、IP ACL 管理権限を持つネットワーク一覧が表示されます。



図 1 : IPAC ログイン画面

図 2 は、UTACL に表示されるネットワーク一覧から、130.69.XXX.XXX/24 のネットワークを選択した場合です。この画面において、「テンプレート」と「詳細指定」のどちらかを用いて ACL を設定します。

「テンプレート」は ACL の簡易設定機能であり、Web Server、SSH Server、CONFERENCE といったある程度一般的な用途に対する設定を簡易に行うことができます。例えば、130.69.XXX.25 という IP アドレスに遠隔会議システムを設置した場合には、Type を CONFERENCE に、Address Range に 130.69.XXX.25 を入力し、「ACL 作成」ボタンを押すことで IP ACL 設定が入力されます。

入力した ACL 設定は「追加待」の状態になります。これは、追加したルールが即時に適用されるのではなく、全学 FW 管理者が ACL 設定を確認した後に適用される

ことを意味します。入力した ACL 設定が即時適用されないのは、ACL の設定ミスを防ぐためであり、まずはこのような運用にて UTACL の提供を開始しています。

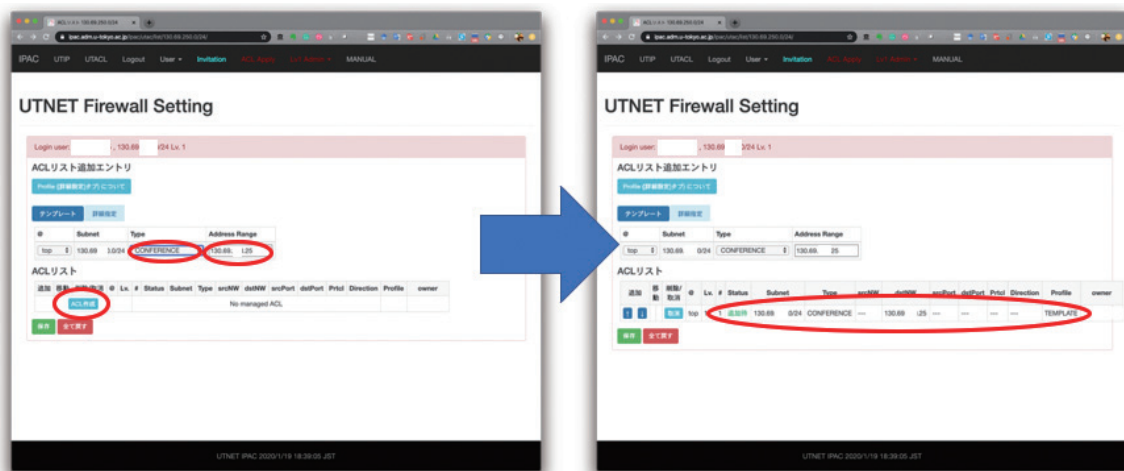


図 2 : UTACL へのテンプレート機能を利用した IP ACL 設定

設定したいすべての ACL を入力したら、左下の「保存」ボタンを押すことで、全学 FW 管理者の確認待ち状態になります。通常は 2 営業日以内に確認され、第二段階 FW に反映されます。

また、「詳細指定」においては、送信元 IP アドレス範囲、宛先 IP アドレス範囲、送信元ポート番号、宛先ポート番号を指定して IP ACL を設定できます。詳細設定にて ACL を設定する場合を図 3 に示します。

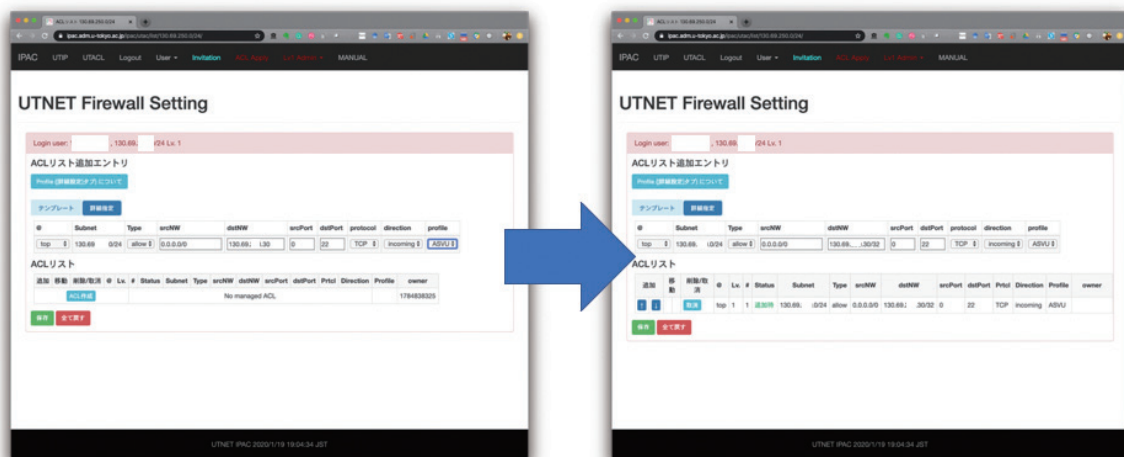


図 3 : UTACL への詳細指定機能を利用した IP ACL 設定

詳細指定は、ルータやファイアウォールといった機器で ACL を設定したことのある方であれば、すぐに使い方は理解できると思われます。列の最後に「Profile」という項目がありますが、これは設定した IP ACL ルールに対して、ウィルス検査や脆弱性をついた攻撃の検知、URL フィルタリング等を追加で設定する項目となります。Profile の詳しい説明は、列の上部にある「Profile ([詳細指定] タブ) について」のボタ

ンを押して頂けると、簡易的な説明が表示されます。

Profile も含め、UTACL の詳細な使い方を知りたい場合は、IPAC の上部メニューにある「MANUAL」をクリックしてください。UTIP、UTACL を含む IPAC ポータルサイト全体の最新操作マニュアルを見ることができます。

UTACL 機能が整備され公開されたことにより、第二段階全学FW 管理下ネットワークに対して IP ACL を設定して頂くことが可能となりました。UTACL は、さらに管理の利便性を増すために、全学 FW WG によって改善が続けられます。機能に対する要望や質問は、下記の問い合わせ先までお願い致します。

IPAC（東京大学 IP アドレス / 全学 FW 管理システム）

<https://ipac.adm.u-tokyo.ac.jp/>（学内からのアクセス限定）

全学ファイアウォールの利用方法ならびに申請方法。

<https://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/> 全学セキュリティファイアウォール

お問い合わせ先メールアドレス

fw-request@itc.u-tokyo.ac.jp

（ネットワーク研究部門 関谷 勇司）

教育用計算機システムに関わる一部サービスの終了

情報基盤センターでは、教育用計算機システム（以下「ECCS」という）として、端末や印刷システム等のほか、様々なサービスを提供しています。しかし、ECCS 以外で同様のサービスが存在する、利用者が非常に少ない、等の理由で、以下のサービスを終了いたしましたので、まとめてご連絡いたします。

ECCS 教職員メール

従来 ECCS を利用する教職員には、メールアドレスが ローカルパート@ mail.ecc.u-tokyo.ac.jp の ECCS 教職員メールを提供してきましたが、2020 年 2 月よりメールアカウントの新規発行を停止しました。

既存の教職員ユーザについては、ECCS クラウドメールのメールアドレスに対するエイリアスとして、2020 年 6 月（予定）より従来のメールアドレスを用いたメールの送受信を可能とします。ECCS クラウドメールの利用方法については、ECCS の Web サイト上の広報「ECCS クラウドメール利用方法－初期設定等－」https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2016/04/01_2159.html をご覧ください。なお、これまでのメールサーバ（MailSuite）上にあるメールを読めるのは、2020 年 8 月までです。必要に応じて、各自でサーバ上のメールのバックアップや ECCS クラウドメールへの移動等の作業を行ってください。

ユーザ情報発信用 WWW サーバ

2020 年 2 月末をもってサービスを終了しました。サーバ上のコンテンツは全て削除済みです。

携帯端末接続環境（有線 LAN）

2020 年 2 月末をもってサービスを終了しました。

本サービスのご案内 Web サイト（Web ページ）

<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

お問い合わせ用メールアドレス

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

（教育本郷チーム・教育駒場チーム）

WEB PARK 利用者アンケート

WEB PARK サービスは、「さくらインターネットのレンタルサーバ」を借り入れてサービスを行っております。借入期間は約 4 年間（2017 年 2 月から 2021 年 3 月末）であり、現行サービスの終了まで約 1 年となったため、現在情報基盤センターでは次期サービスの調達の準備を開始しています。この次期サービスの内容を検討する作業の一環として、サービスにおいて必要とする機能などに関するアンケートを実施しています。

WEB PARK の広報 Web サイトからアンケートのページにアクセスできますので、WEB PARK をご利用中およびご利用を検討されている方はご協力をお願いいたします。

WEB PARK の広報 Web サイト

<https://www.itc.u-tokyo.ac.jp/education/services/webpark/news/>

お問い合わせ用メールアドレス

park-support@itc.u-tokyo.ac.jp

（教育駒場チーム）

SC19 参加報告

東京大学情報基盤センターは、2019 年 11 月 17 日から 22 日までの間、米国コロラド州デンバーで開催された SC19 (The International Conference for High Performance Computing, Networking, Storage, and Analysis)に参加し、研究展示を行いました。本稿では、SC19 に参加した東京大学情報基盤センター教職員の報告をまとめたものです。



SC19 会場 (Colorado Convention Center)

SC19 について

SC19 は、高性能計算 (HPC) 分野に於いて最大級の国際会議であるとともに、様々な情報技術関連企業や研究所・大学等の技術展示会としても知られています。以前は Supercomputing-XY (XY : 開催年) という名称が用いられていましたが、1997 年に SC-XY という現在の名称に変更されています。今回は Supercomputing-88 から数えて 31 回目の開催となりました。今回の開催地は、コロラド州デンバーで、会場は Colorado Convention Center で行われました。本会場は、最近 10 年の開催だと SC17、SC13 でも利用されている会場です。市街地にあるため交通の便は良く、周辺施設も充実しているように感じました。デンバーは会議期間中に 0°C を下回ることもあり、雪が降る寒い日もありました。

本会議は、基調講演、研究発表、パネル討論、BoF (Birds of a Feather: 特定のトピックを定めた小規模集会)、主要技術の理解を助けるチュートリアル、併設される多数のワークショップで構成されています。主催者発表によると、SC19 の来場者数 (参加登録者数) は 13950 人を越えました。また、展示については 370 団体が参加し、大変な賑わいでした。

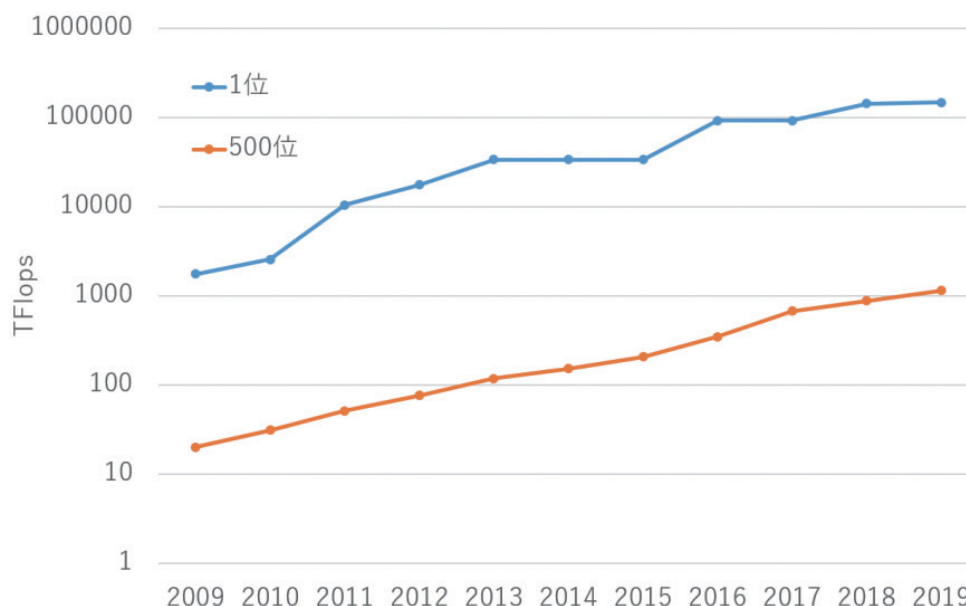


Colorado Convention Center のロビー

各種ランキングについて

毎年の SC ではスーパーコンピュータの性能に関する様々なランキングが更新されます。最も有名なスパコンランキングである Top500、スパコンの電力性能を競う Green500、実際のアプリケーションに近いと言われる HPCG や、スパコンの IO 性能を競う IO-500 などがあります。本稿では各種ランキングから見える全体的な傾向について報告します。

Top500 (<http://www.top500.org/>) は世界のスパコンの性能を LINPACK という係数行列が密の連立一次元方程式を解くベンチマークの処理速度によって競うもので、1993 年の開始以来、6 月にヨーロッパで行われる会議である ISC と、本会議 SC にて年 2 回更新されます。今回のランキングでは、上位 10 のスパコンは顔ぶれが変わりませんでした。なので上位について特筆すべき点はありませんが、今回注目すべき点は、ランキング最下位 (500 位) のスパコンの性能が 1PFlops を超えた (1.14PFlops) ことです。下記グラフに、過去 10 年における Top500 の 1 位のマシンと 500 位のマシンの性能の推移を示します。近年では、Top500 の 1 位になるのは国策の超大型スパコンであることが多いため、そう頻繁には更新されませんが、500 位の性能は順調に伸びていることがわかります。現在の 500 位のスパコンは、10 年前に 1 位だったスパコンと近い性能です。



過去10年のTop500における、1位・500位のスーパーコンピュータの性能推移

また、電力当たりの性能を競う Green500 では、京コンピュータの後継機である「富岳」スパコンのプロトタイプ機がトップとなりました。近年のスパコンの性能は、利用可能な電力量によって律速されるため、消費電力当たりの性能は非常に重要な指標です。富岳プロトタイプシステムは、富岳に搭載される CPU と同型の「A64FX」を 768 個搭載したシステムです。A64FX は Arm SVE (Scalable Vector Extension) 命令と呼ばれる 512bit のベクトル演算をサポートします。富岳プロトタイプシステムの理論性能が 2.3593PFlops であるのに対し、1.9995PFlops の実行性能を達成したとのことで、84.7% の実行効率となります。同じ 512bit のベクトル長を持つ本学のスパコン、Oakforest-PACS と Oakbridge-CX の実行性能がそれぞれ、54.4% と 64.8% ですから、非常に高い実行性能を実現していると言えます (Oakforest-PACS と Oakbridge-CX に搭載されている Intel Knights Landing と Intel Xeon Cascade Lake は、512bit 演算器を使う際、clock 周波数が落ちるため、実行効率が低くなりやすい)。ランキングの上位のほとんどを GPU 利用型のスパコンが占める中、汎用 CPU のシステムがトップとなるのは画期的なことです。

本学のスパコンとしては、Oakforest-PACS が Top500 のランクを 6 月から一つあげて 15 位 (性能は変わっていませんが、6 月時点で 12 位のスパコン Titan が、運用終了に伴いリストから抹消されたため)、Green500 で 40 位、HPCG で 8 位。Oakbridge-CX が Top500 で 50 位、Green500 で 39 位、HPCG で 45 位となりました。Reedbush は Top500 ランク外となりました。

東京大学情報基盤センターによる展示

東京大学情報基盤センターは昨年同様、「ITC/JCAHPC, The University of Tokyo」の名義によるブース展示を行いました。今回のブース展示においては、情報基盤センターの提供する計算資源や研究事例を紹介するポスターの展示を行い、パンフレット・チラシ・グッズ

の配布を行いました。また、恒例となっているブースでのプレゼンテーションでは、筑波大学計算科学研究センターと共同で設立した最先端共同 HPC 基盤施設（JCAHPC）で運用する Oakforest-PACS などを使った最新の研究など、以下の 6 件の講演が行われました。

講演題目	講演者
Oakforest-PACS Burst Buffer and Parallel File System	Osamu Tatebe (JCAHPC, Center for Computational Sciences, University of Tsukuba)
Infrastructure for leveraging data	Tomohiro Kudoh (Information Technology Center, The University of Tokyo)
Performance evaluation of electron dynamics application on Many-core system	Yuta Hirokawa (Center for Computational Sciences, University of Tsukuba)
Massively Parallel Eigensolvers based on Unconstrained Energy Functionals Methods	Osni A. Marques (LBNL (Lawrence Berkeley National Laboratory), USA)
Fast Numerous Small Dense-Matrix-Vector Multiplications on GPU	Satoshi Ohshima (Information Technology Center, Nagoya University)
Evaluation of Programming Models to Address Load Imbalance on Distributed Multi-Core CPUs: A Case Study with Block Low-Rank Factorization	Yu Pei (Department of Computer Science, University of Tennessee)

各教員の研究に関するポスター発表も行いました。展示ポスターについては、スーパーコンピューティング研究部門のホームページにも掲載しております。

<https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/public/sc19.php>



ブース展示の様子（ゲストによるブースプレゼンテーション）

次回、SC20 は 2020 年 11 月 15 日から 20 日の日程でジョージア州アトランタの Georgia World Congress Center にて開催される予定です。



ブースの前で集合写真

(スーパーコンピューティング研究部門 星野 哲也)

UTNET ミーティング開催報告

2019 年 10 月 28 日（月）13:30 から、武田ホールにおいて第 17 回 UTNET ミーティングを開催しました。

東京大学のネットワーク（研究室レベルを含む）の管理等を担当されている方、部局 CERT 関係者、部局のセキュリティ担当者等の教員、職員、学生、管理を委託されている外部の方などを対象にしたもので、今回は IPAC（東京大学 IP アドレス／全学 FW 管理システム）の部局第一レベル担当者の方にも参加いただき、89 名の方が参加されました。

プログラムと内容は以下のとおりです。

■ UTNET update 2019 / ソフトウェアライセンス

UTNET に関する前回からの変更点や今後の計画などの報告及び、ウイルス対策ソフト及びセンターで提供しているソフトウェアライセンスの紹介を行いました。

■ 包括ライセンスによるソフトウェアの提供に関するお願い

Microsoft Office に加えて MATLAB の提供を開始した旨の報告及び、共同研究員等の包括ライセンス利用に関しての注意点のお願いがありました。

■ UTokyo-CERT 報告

UTokyo-CERT からの報告とインシデントレポートシステムのインシデント分類の更新に関する説明がありました。

■ 理学系研究科の全学 FW への移行について

全学 FW への移行に関して、理学系研究科の事例をご紹介いただきました。

■ 全学ファイアウォールー概要と利用上の注意点ー

全学 FW の概要、移行方法、機能の説明及び、IPAC の利用方法の説明を行いました。

■ フリーディスカッション

主に全学 FW に関する質問が多く、活発な質疑応答がされました。

以下に主な質疑応答内容を紹介させていただきます。

Q. FW の性能は十分ですか。

A. 現状ではまだ余裕がありますが、将来的にはトラフィックの伸びに依存します。

Q. IPAC に関して人事異動等で引き継ぐ際の手順や、複数の立場を持っている人への対応はどうなりますか。

A. 今後、上位レベルの担当者が下位のレベルの権限で設定する機能の追加を検討します。データは人ではなく権限に紐づけられているので、担当者の交代手続きをしていただければ引継ぎの必要はありません。

Q. IPAC の権限移譲に委託業者が可とありますが、その手順はどうなりますか。

A. 条件として 部局が業務協力者として受け入れ、人事情報システムに登録し、UTokyo Account が発行されれば可能です。登録手続きは、所属部局の人事情報システム部局管理者（各部局の庶務・総務又は人事担当）にご相談ください。

- Q. 全学FWへの切り替えと関係なく、UTIPにIPアドレス情報を登録する必要がありますか。
- A. 全学FWを使用しているかどうかにかかわらず、グローバルアドレスを使用されている場合はUTIPへの登録をお願いします。
- Q. 東京大学として使っている学外アドレスもUTIPに登録する必要がありますか。
- A. 現在は東大割り当てのアドレス管理のために運用されていますので、学外アドレスの登録はできません。ただし、セキュリティの観点から東京大学で使われているIPアドレスの把握は必要なので、その点は今後の課題と考えています。
- Q. UTNET構成図で各部局ネットワークがどこから接続されているかわかるようにできないでしょうか。
- A. 部局の接続情報は記載していません。すべての接続情報を記載すると非常に複雑な図となり、実現は困難です。部局の接続については当該部局に聞いていただくのと最も詳しい情報が得られると思います。



アンケートの集計結果では、「理学系研究科の全学FWへ移行」と「全学ファイアウォール」が参考になったという意見が多く、各部局のインシデント対応方法の紹介など、部局や専攻科の個別事例を聞きたいといった要望が見受けられました。

関連資料は、学内向けに以下のWebサイトで公開しています。

第17回 UTNET meeting（学内限定）

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/utnetmeeting/17-utnet-meeting>

（ネットワークチーム）

教育用計算機システム（ECCS）相談員の声

はじめまして。ECCS相談員の井出と申します。1年半ほど前から駒場地区で勤務しており、今後も本郷で勤務を続ける予定でございます。今回、本誌に紙面を頂く機会を頂きましたので、システムや勤務内容についてご紹介差し上げたいと思います。

ECCSとは教育用計算機システムの略です。駒場・本郷の随所に配置された1000台を超える端末は、もれなく16GBのメモリと高速なCPU（授業では3DCGや科学計算も扱われますが、それらが十分に快適に動作するのに足りる性能なのです）を備え、どこからアクセスしても数分かからずにWindows環境とMac環境にアクセスすることが可能です。その他にも、印刷機、課題提出プラットフォームから、昼夜問わず使用可能なリモートアクセス環境、高価な学術ソフトウェア・各種サービスのライセンス提供など、学生・教職員の学習・研究活動をサポートします。最近では2019年より、高価な数値解析ソフトウェアであるMATLABのライセンスが無料で提供されるようになったのも記憶に新しいです。

一連のシステムによって提供されるサービスは非常に幅広く、その全貌を把握している学生はごくわずかです。折角の恵まれた機会に気づかずにいる学生がいるのもとても残念なことです。いざ使おうという段になっても、その使い方に慣れておらず戸惑う人々が多くいらっしゃいます。私たちECCS相談員は、そんな人々の質問に答えることによって、相談者の手助けをするために日々活動しています。

そんな日頃の相談員としての活動に加えて、gmtech と呼ばれている、相談員統括業務も行っています。gmtech は、ECCS相談員の勤務管理システムの他、週に一回ほど相談員の間でその週にあった事例を交換するミーティングを運営し、さらに得られた知見などをWebサイトにまとめる業務を行っています。相談者から受ける質問内容はECCSシステムに関するものから、大学によって管理されている学務システムやアカウントに関する質問、さらには授業の課題の質問まで、非常に多岐に渡り、相談員がすべてを咄嗟に判断することが難しいことも多々あります。ミーティングはそのような情報を共有する場として欠かせないものです。また、過去の相談内容やよく質問を受ける内容などをまとめたWebサイト「ECCS Tutor's page」（<https://www.sodan.ecc.u-tokyo.ac.jp/>）には濃密な知識が集積され、今ではECCSとは直接関係ない人からも有用な情報として参照されるページも出てくるに至りました。

ところで、最近ECCSのホームページ（<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>）の右下に「チャットボットでのお問い合わせ」というリンクが現れました。どうやら、ECCSのホームページの情報を学習して対応してくれるそうなのです。AI時代の波はここまで押し寄せてきて、「AIが人間の仕事を奪う」というSF的未来がやってきたか、などと思ったものの、幸か不幸かそのレベルには至っていないようです。思えば現代の人工知能ブームの影響かWebサイトの隅に「人工知能」を標榜するウィンドウを見る機会

も多くなりましたが、その実状は選択式で応答するものやごく簡単なものに限られます。ましてや前述のように、相談員から受ける質問内容は多種多様に渡るので、現在の自然言語処理や意味理解のレベルでは残念ながらまだ実用化には至らないのでしょうか。

ECCS相談員はこれからも、相談者の悩みを解決するために、ウェブサイトの片隅ならぬ、部屋の片隅で待機しております。AIに負けないように、というにはまだ時代は早い気がしますが、皆様お気軽に相談にいらしてください。

(駒場地区相談員 井出竜鳳)

本郷巡回連絡員の竹内と申します。駒場で1年半相談員を、本郷で半年巡回連絡員をつとめ、あわせて相談員経験は2年弱となります。

相談員をしていると、あるいは私の場合は個人的に情報を集めているところもあるのですが、学内のシステムについて自然と詳しくなります。その一方で、ユーザの素朴な目線を忘れがちになってしまっているのではないかと、思うこともあります。たとえば、東京大学新聞2019年6月11日号に「連携強化目指すも難航 ITC-LMSとUTASの違いって？」という記事が掲載されています。大学の論理からすれば学務システムであるUTASと学習管理システムであるITC-LMSが分かれているのはそんなに不自然なことではない、などと並べ立てたくなってしまうわけですが、学生からすればどちらも授業に関係するシステムであって、いたずらにいたりきたりさせられる以外の何者でもないわけです。そういう意味では、相談員は学生の立場としてシステムを利用するユーザであり、また一方でシステム側の事情もある程度わかっている、という地味に貴重で重要な立ち位置なのではないかと思ったりするわけです。

さて、いち学生として、最近、「うわっ…ITC-LMSの知名度、低すぎ…」なんてことを感じています。(この欄の読者はご承知のとおり) ITC-LMSは、情報基盤センタの運用する学習管理システムであり、教材のダウンロード配布やレポート提出などの機能を備えています。私の受けている授業でもかなりの割合でレジュメやスライドなどの教材のデータ配布がされているのですが、その配布にITC-LMSが使われていないことが多いのです。そのかわりに、Googleドライブなどのクラウドサービスの共有機能を使ってみたり、教員の個人的なウェブサイトや研究室のウェブサイトに置いてみたり、ついでにBASIC認証をかけてみたりするわけです。教員は毎年同じやり方でやっていれば済むのですが、学期に十何個もの授業を受けている学生としては、それぞれの授業ごとに資料が配布されるウェブサイトを把握し、場合によっては長ったらしいURLを手打ちし、パスワードをメモし、毎週アクセスして更新を確認し……とやらなければならないわけで、いくら相談員であっても、ICTシステムの操作に

長けていても、こればかりは煩雑で面倒というほかありません。ましてや、ICTに疎い学生からすれば、記号が多数含まれるURLをスマートフォンで入力するなど苦行でしかないでしょう。もちろん、ITC-LMSを使えば、すべての授業のデータが1箇所からダウンロードでき、教員もダウンロードできる範囲を自動的に履修学生だけに制限することができ、いいことづくめであるのは言うまでもありません。あるいは、データ配布に限らず、レポート提出にしても、データ提出でもいいようなレポートなのに、わざわざ授業のない日にレポートボックスに提出するためだけに大学まで往復数時間、などという悲劇は少なからぬ学生が体験しているでしょう。

それでは、どうしてITC-LMSが使われないのでしょうか。それはひとえに、教員がITC-LMSの存在を知らないからであると感じます。実際、私の見聞きしている範囲でも、学生が教員にITC-LMSについて説明し、ITC-LMSが使われるようになった、という例は何件かあります。詳しくない学生の立場から素朴に考えれば、全学のシステムで入学直後の学生でも知っているものを教員が知らないというのはおかしい話ではないかとも思うのですが、これが現状なのです。情報基盤センターも全学の教員に門戸を開いて「システム利用説明会」なるものを行っていて、手をこまねいて(?)いるわけではないと思うのですが、正直、まったく行き届いていないというのが実態であるというのもまた事実なのだと思います。情報基盤センターがいくら全学の組織であるといっても、各学部が相当な独立性を持って動いている本学において、全学の教員にITC-LMSを普及する、というのはなかなかの難事業であるのでしょうか（そのあたりがいかにも東大、という感もするところですが）。とはいえやはり、いち学生として、なんとかなるまいか、と思わずにはいられません。

というわけで、ささやかながら私にできることはということで、草の根の運動でITC-LMSを広めていくことはできないかと思っています。この文章をお読みのみなさま、先生方におかれましては、ぜひ先生方の間でITC-LMSを広めていってはいただけないでしょうか。そして学生のみなさま（これを読んでいる学生は相当めずらしいと思いますが）、ITC-LMSを使わずに教材のデータを配布している授業があったら、先生に一声かけてみてはいかがでしょうか。

長々と相談員業務とほとんど関係のない事柄を書いてしまいましたが、制度やシステムの都合を押し通すのではなく、ユーザである学生としての立場に寄り添うということは、相談員の基本的な姿勢として重要なのではないかと思います。今後もそうした姿勢を忘れることなく相談員としてつとめていけたらと思います。

（本郷巡回連絡員 竹内 朗）

新任教職員紹介

河合 直聡（かわい まさとし）

特任助教

スーパーコンピューティング研究部門

2020年1月1日に着任いたしました、河合と申します。

2018年3月31日までこちらでお世話になっておりましたが、またこちらで研究させていただける運びとなりました。

これまでは反復法ソルバやその大規模並列化などの研究を行っていましたが、今回はデータ同化に関する研究を行う予定です。

データ同化ではシミュレーションの結果に対して、センサーやレーダー、衛星などで取得した実際の計測結果を反映し、境界条件等を更新します。これにより、シミュレーションの解析条件がより現実に近い、高精度な結果が得られると期待できます。

ここで問題になるのは、実際の測定結果をどうシミュレーションの境界条件に反映するかです。また、定期的にかつ大量に受信する実際の測定結果を、シミュレーションを遅延させないように処理しなければなりません。これらの問題を解決するために、データ同化アルゴリズムの改良や効率的な実装に関する研究を行うとともに、大規模並列環境でのIMEを使用した高速な並列I/Oに関する研究も進めていく予定です。

今後、これらの問題を解決することで、天候や地震予測に貢献できるようがんばっていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



芝 隼人（しば はやと）

特任講師

スーパーコンピューティング研究部門

2020年2月1日付けでスーパーコンピューティング研究部門に特任講師として着任しました芝隼人と申します。2009年から6年半は本学物性研究所、2016年より4年間は東北大学金属材料研究所において助教の職にありました。特に物性研究所においては物性科学分野向けスーパーコンピュータの全国共同利用に、運用側として関与しておりました。専門は、粒子系シミュレーションによる液体・分子集合系の研究です。個別粒子（原子分子）の大規模集合体を直接シミュレーションすることによって、連続体スケールに迫っていく基礎研究で、この数年、いくつかの成果を得てきました。

情報基盤センターにおける研究活動では、機械学習などを利用したデータ駆動型アプローチによるシミュレーションモデルの高度化や、高精度な計算加速手法開発などが主なミッションです。実アプリケーションとハードウェア、双方を調和的に考慮した研究を行い、ポストムーア時代の高性能計算への貢献をできればと願っております。



す。また、システム運用にあたっては物質材料シミュレーション分野でのこれまでの経験も活かしつつお役に立ちたいと考えており、関係分野のアプリケーション利用者の方々には気軽に声がけいただければと思います。足らぬところが多いとは思いますが、どうか皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

古瀬 武彦（こせ たけひこ）

本部情報戦略課副課長

2020年1月1日付けで、本部情報戦略課に参りました古瀬と申します。

異動前は医学部付属病院医療運営課と大学事務とはやや異なる部署でしたが、病院での経験を活かせたらと思っています。情報系の知識は浅いですが今回の異動を機会に深めることができたらと思っています。皆様のお役に立てるよう日々努めていきます。どうぞよろしくお願い致します。

趣味は食べ歩きです。最近は、築地場外にはまっています。

新井田 康恵（にいだ やすえ）

本部情報戦略課派遣職員

研究支援チーム

2019年8月1日より情報戦略課研究支援チームでお世話になっております新井田と申します。これまで一般企業に勤めていましたので専門用語や仕事の進め方などの違いに戸惑っています。一日も早く業務に慣れるよう努めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

趣味はゴルフで週に最低2回はクラブを握っています。今はどうしたら飛距離が伸びるのかを日々考えていて猛烈に練習しています。いろいろな方とラウンドするのが好きなので、ゴルフをされる方は是非お声がけください。

問い合わせ先

教育本郷チーム・教育駒場チーム

<https://media.itc.u-tokyo.ac.jp/>

教育用計算機システム (ECCS) <https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

MailHosting サービス <https://mh.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

WEB PARK サービス (Web ホスティングサービス)

<https://www.itc.u-tokyo.ac.jp/education/services/webpark/>

park-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：駒場 44403

DNS ホスティングサービス

<https://www.itc.u-tokyo.ac.jp/education/services/dns-hosting/>

dh-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

WebDAV サーバ

https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/network_storage.html

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

リモートアクセス環境 <https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/outside.html>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

全学無線 LAN サービス用 AP 提供サービス

https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/mobile_bukyoku_2014.html

utroam-ap-rental@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

講義用 WWW サーバ <https://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23004 駒場 46140

学習管理システム ITC-LMS <https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

lms-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：駒場 44402

教材作成支援

<https://www.itc.u-tokyo.ac.jp/education/services/e-learn/editing/>
ellearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23002 駒場 44403

遠隔講義・会議システム

<https://www.itc.u-tokyo.ac.jp/education/services/e-learn/dist-edu/>
DistEdu-support@itc.u-tokyo.ac.jp

内線：本郷 23002 駒場 44403

学術情報チーム

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>
kiban-dl@itc.u-tokyo.ac.jp

GACoS (Gateway to Academic Contents System) <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/>
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22649

東京大学 OPAC <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

・東大附属図書館 ASK サービス <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/ask/>
 内線：22649

・システム障害 syskan@lib.u-tokyo.ac.jp
 内線：22614

E-journal & E-book Potal <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ext/ejportal/>

・東大附属図書館 ASK サービス <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/opac/ask/>
 内線：22728

東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)

<https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22728

東京大学学位論文データベース <http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/>
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22728

SSL-VPN Gateway サービス <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/sslvpn/service.html>
sslvpn-soudan@itc.u-tokyo.ac.jp

学術研究支援ツール <https://mbc.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/tools/>
kiban-dl@itc.u-tokyo.ac.jp

情報探索ガイダンス、出張講習会

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

内線：22649

レポート・論文支援ブック

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/supportbook.html>
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22649

Litetopi (メールマガジン) <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/litetopi.html>
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

ネットワークチーム

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学情報ネットワークシステム (UTNET) <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

- ・ 一般

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22750 03-5841-2750

- ・ 申込み手続き

request@nc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22750 03-5841-2750

- ・ 基幹ネットワークの通信障害

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22748 03-5841-2748

ネットワークセキュリティ

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/internal-only/security>
ut-security@nc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22711

UTNET 無線 LAN 接続サービス <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/lan>

nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22750

学内での公衆無線 LAN サービス

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/lan/public>

サーバハウジングサービス

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/internal-only/housing>
nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22750

PKI サービス (電子証明書発行サービス)

<https://www.pki.itc.u-tokyo.ac.jp/>

PublicServerCertificates@itc.u-tokyo.ac.jp

ソフトウェアライセンス (ウイルス対策ソフト含む)

<https://www.software.itc.u-tokyo.ac.jp/>
software-license@itc.u-tokyo.ac.jp

内線 : 22711

スーパーコンピューティングチーム

<https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/>

スーパーコンピュータシステム

問い合わせ方法のご案内

<https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/support/contact/>

- ・利用申込み関係、手引き等請求

uketsuke@cc.u-tokyo.ac.jp

内線：22717, 82717 03-5841-2717（研究支援チーム）

- ・プログラム相談、システム利用に関する質問

Oakbridge-CX 専用 soudan-obcx@cc.u-tokyo.ac.jp

Oakforest-PACS 専用 soudan-ofp@cc.u-tokyo.ac.jp

Reedbush 専用 soudan-rb@cc.u-tokyo.ac.jp

- ・システムに関する要望・提案

voice@cc.u-tokyo.ac.jp

学際情報科学研究体

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

<https://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/>

○本センターのサービスに関するご相談：conciierge@itc.u-tokyo.ac.jp



※各サービスの窓口は、巻末の問い合わせ先をご覧ください。直接お越しになる時は、サービスによって場所が異なりますので事前にご確認ください。

今回のDigital Life 34 はいかがでしたでしょうか？ 皆様からの、ご意見、ご要望、ご感想をお送りください。

E-mail: dl-survey@itc.u-tokyo.ac.jp

URL: https://www.itc.u-tokyo.ac.jp/public/digital_life/

東京大学情報基盤センター
Information Technology Center, The University of Tokyo

〔本郷〕 ☎113-8658 東京都文京区弥生2-11-16
TEL:03-5841-2710 FAX:03-5841-2708
☎113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 総合図書館内
〔駒場〕 ☎153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 情報教育棟内
〔柏〕 ☎277-8589 千葉県柏市柏の葉5-1-5 第2総合研究棟内

東京大学情報基盤センター広報誌
Digital Life Vol.34 (2020.3)

編集・発行
東京大学情報基盤センター広報委員会
Digital Life 編集長：品川 高廣
Digital Life 編集スタッフ：関谷 貴之、関谷 勇司、塙 敏博、飯野 孝浩
中村 寛、阿曾 義浩、川名 由希子、坂田 奈緒子